

水道事業は、厳美・萩荘簡易水道、興田・猿沢簡易水道などを拡張し、未普及地域の解消を図ります。また、川崎浄水場の建設に着手するほか、老朽施設の改修と更新事業を実施します。

公共下水道事業は、管路整備を推進しながら一関、花泉、千厩地域の供用区域を拡大し、快適な生活環境と水質保全の向上に努めます。また、下水道未接続世帯への早期接続を呼び掛けながら合併処理浄化槽の整備を進め、水洗化の向上を促進します。

●協働によるまちづくりの推進

I・L・C実現の夢を抱き、国際化に対応したまちづくりを進めるためには、市民の皆さんと協働によるまちづくりが欠かせません。行政からの「二方通行」ではなく、「双方通行」の市政へと転換することが重要です。市政全般の情報を提供し、それに対する意見や提言をいただきながら、市民一人一人がまちづくりの当事者意識を持って取り組める協働の市政運営に努めます。

●協働アクションプランの推進

いちのせき元気な地域づくり事業や地域おこし事業を展開するとともに、地域づくり活動の主体となる地域協働体の設立とその組織体制の充実を支援します。

持続可能なバス公共交通体系の確立に向け、市民、運行事業者、関係機関と連携しながら利用促進策を講じます。予約利用型の乗合タクシーの導入、料金体系と負担軽減

エネルギー・省エネルギーの取り組みを推進します。

資源集団回収事業などを支援し、市民の環境意識の啓発を図るとともに、不法投棄やポイ捨ての防止を図り、住みよい快適なまちづくりを推進します。

空き家の実態調査を継続して進め、その利用を含めた対応策などについて検討します。

●防災のまちづくり

大規模災害に備えた訓練の実施「となりきんじよ防災会議の日」や自主防災組織への支援など、市民の防災意識の高揚を図ります。

防災行政情報システムの運用を開始するとともに、コミュニティFMを活用した迅速な情報提供に努めます。消防救急無線などのデジ



災害・緊急訓練見学会

減制度の再構築を検討します。なのはなプラザの情報発信に努め、さらなる利用を促進しながら市民活動を支援します。市民が主体的に取り組み景観まちづくり活動を支援します。

重点施策「中東北の拠点都市一関」の形成

●雇用対策

昨年、一昨年と2年連続で新規高卒者の就職率100%を達成しました。引き続きジョブカフェ一関など関係機関と連携しながら、若者の地元への就職と職場定着、新しく事業を起こす女性や若者の起業支援に努めます。緊急雇用創出事業を実施して、雇用の場の確保と地域で働く人材の育成を支援します。

●工業の振興と企業の育成

企業ニーズに応じた技能、技術の習得を目指す研修機会を設ける



古くから一関のもち食文化として伝わる「もち本膳」

タル化を進めます。

防災拠点となる一関北消防署東山分署の建設、南消防署藤沢分署の実施設計を進めます。

一関遊水地事業は、小堤、水門や磐井川堤防の整備を促進するほか、狭隘地区の治水対策を進めます。JR磐井川鉄橋架け替えに向けた早期協議を要望します。

中小河川の治水対策は、昨年夏の大雨災害を教訓に、抜本的な対策の実施に向けて取り組みます。

庁内における危機管理事案の情報共有、連絡体制の確立や洪水危険河川の監視計画の見直しなど、災害発生への兆しを捉え、迅速かつ万全な対応に向けた初動態勢を整備します。

災害時に自ら避難することが困難な人の名簿を整備し、避難支援や見守りなど地域における支え合い活動を推進します。土砂災害ハザードマップを作成し、警戒避難情報の周知を図ります。

●平泉と連携した地域づくり

世界遺産拡張登録を目指す骨寺村荘園遺跡は、白山社、駒形根神社内に確認された建物跡と塚群や梅木田遺跡の発掘調査を重点的に実施するほか、陸奥国骨寺村絵図の文献研究を進めます。また、重要な文化的景観に選定されている「関本寺の農村景観」の構成要素である小区画水田の保全活用方針の策定を進めます。

とともに、品質管理能力の向上を図り、質の高いものづくりを支援します。また、地域の特性や資源を生かした振興を図るため、技術移転を含めた事業誘致を積極的に展開し、新産業、新技術の創出支援や農商連携などを支援します。操業開始時における新規採用者の人材育成や地域企業との連携を支援するフオロアップにも努めます。

●農林業の振興

農業は、本年3月に誕生した「いわて平泉農業協同組合」との連携を強化しながら、生産体制の強化、担い手の育成、農産物の高付加価値化や6次産業化を進め、所得向上に向けた取り組みや中山間地域農業の活性化に努めます。

一関産が全国に通用するブランドになるよう「地産外産」を積極的に推進し、本市の物産や観光資源を全国に売り込みます。首都圏な

26年度に導入される平泉ナンバーの普及を進め、世界遺産「平泉」を核とするこの地域の一体的な地域づくりに取り組みます。

市政運営の基本

本市の財政見直しは、合併算定替が段階的に縮減されるなど、厳しい状況が見込まれます。第2次行政改革大綱と集中改革プランを実行し、歳入、歳出全般にわたる見直しを行います。

このようなか中で、現総合計画の最終年である27年度を見据え、計画事業を着実に実施します。市勢のさらなる発展とI・L・Cの実現を見据えた将来のまちづくりに向け、28年度を初年度とする新たな総合計画を市民の皆さんと共に策定します。

また、市民ニーズや行政課題に的確に対応できる組織機構の見直しを進めます。本年度は、千厩支所庁舎内に建設農林センターを配置します。

市政に関する説明責任は、これまで以上に求められています。これまで各地域に向いて移動市長室を開催し、市民の皆さんの声を直接聴いたり、市からの情報を発信したりしてきました。今後は、職員自ら現地に向き、その場で聴き、その場で考え、その場で判断する現場主義を徹底します。さらに、より効果的、戦略的な情

どの消費者ニーズを的確に捉えた情報発信と販路拡大で一関ファンに拡大に努めます。

林業は、本年1月に発足した一関地方森林組合との連携を強め、地域林業の振興と森林資源の活用を図ります。

●観光の振興

昨年、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」の提案書に例示された「一関のもち食文化」を、「全国ご当地もちサミット」や各種イベントを通じて全国に発信します。

「一関・平泉バルーンフェスティバル」は、「全国地ビールフェスティバル」と同様に東北を代表するイベントに育てます。

平泉の世界遺産、猊鼻溪、厳美溪の周遊観光に向けた二次交通確保への支援を継続するほか、映像による本市の魅力発信や仙台圏における観光キャンペーンを実施して、観光客を誘致します。

●教育、人材育成

未来を担う子供たちの職業観、勤労観、社会人基礎力を育てるため、キャリア教育に取り組みます。学校施設の整備は、27年4月開校予定の「磐井中学校 校舎の整備を進めます。また、山目小学校校舎と一関小学校プールの整備、東山中学校校舎の耐震改修と大規模改修、金沢小学校校舎の大規模改修を進めます。学校給食センターは、仮称「西部第二学校給食センター」を整備するほか、花泉学校給食センターの設備を増設します。

報発信に努めながら、相手が期待する以上のサービス、相手に感動されるサービスを提供できるよう行政サービスのさらなる向上に努めます。職員には「脱藩の気概で臨むように」と話し、県境に接する一関であればこそできる県境を意識せず施策に取り組みよう指示したところです。

おわりに

安倍総理は自身の施政方針で「創造と可能性の地。新たな東北の姿を、世界に向けて発信しましょう」と述べています。I・L・Cの実現は、東北の可能性や魅力を世界に発信する絶好の機会であり、東北が飛躍するチャンスです。

今後、宮城県に放射光施設、山形県に重粒子線施設、青森県に国際熱核融合実験炉関連施設が順次建設される予定です。それぞれ加速器技術を用いた施設であり、これらプロジェクトと連動する集大成がI・L・Cであると考えています。国家プロジェクトとして位置付けられるためには、東北全体が一丸となって取り組むことが重要であり、地元自治体としての役割を果たすべく、これまでも増して強い信念で取り組みます。

I・L・Cについて講演した際、小学生から「将来、I・L・C関係の仕事に就きたい」「科学者になりたい」と言われました。別の学校では、I・

本年7月開館を目指す新一関図書館の整備を進め、読書指導員の増員や図書資料の充実を努めます。

●保健、福祉、医療の充実

全ての市民が、健康で心豊かに自立した生活を送るためには、保健・福祉・医療の連携と強化が重要です。市民の健康意識の向上を図るとともに、新保健センターを拠点に生涯を通じた健康づくりに総合的に取り組みます。

地域医療は、医師修学資金貸付事業を継続して医師確保対策に努めるほか、医療と介護を考える公開講座の開催などを通して医療機関の適切な受診のあり方を広報しながら、医師の負担軽減を図り、医療機関、市民、行政が役割を分担し、連携を強化することで、地域医療体制の充実を図ります。

障がいのある一人一人に対応した支援計画の検討など、総合的な支援を行う基幹相談支援センターを設置して、きめ細かな相談支援体制の充実を図ります。

国民健康保険は引き続き厳しい運営が見込まれるが、特定健康診査の推進など医療費の適正化に取り組みるとともに国保制度改正の動向や財政見直しを踏まえながら、運営の安定化に向け努力をします。

●環境対策

住宅用太陽光発電システムの設置、公共施設への太陽光発電システムの導入を促進するほか、防犯灯、道路照明灯、公園灯、商店街路灯などのLED化を計画的に進め、新



C実現に向けた夢を手紙で伝えてくれた児童もいました。さまざまな場面で、子供たちから夢を託されていることを実感しています。

この子供たちの夢がかなえられよう、この子供たちが、ふるさと一関を誇りに思ってくれるよう、「世界の人人々から親しみを持たれ、信頼される地域」を目指す、そんなまち一関を、市民の皆さん、一緒につくっていきましょう。

私は、I・L・Cを一関発展の基軸と位置付け10年先、50年先、100年先の姿を見据えた取り組みを進めます。「ともに拓こう、ふるさと新時代」をキャッチフレーズに、未来に向けて、積極果敢に挑んでいく覚悟で、市政運営に誠心誠意努力をしてまいります。

議員各位ならびに市民の皆さんのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。